

令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	37	38	30	16.5	23.6	学校
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	404
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	大阪府
							489
							全国
							503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	42	42.2	31.5	38.0	28.1	38.4	15.8	11.4	20.0	20.2	16.9
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.6	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

＜国語＞ 平均正答率の全国比は、ここ3年間上昇しているが、無解答率は昨年より上昇してしまった。全国と比較して、平均正答率はいずれの領域も下回っているが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと」「聞くこと」の領域において全国平均との差は昨年度を上回った。「書くこと」「読むこと」の領域においては、全国平均をそれぞれ21.1ポイント、20.6ポイント下回っているが、年々全国平均との差は縮まりつつある。

＜数学＞ 平均正答率の全国比、無解答率はいずれも昨年度を上回った。領域別にみると、全国と比較した差が「関数」の領域においてのみ、昨年度の値を下回った。

＜理科＞ 全国と比較して、IRTバンド下位(1,2)が43.5ポイントも上回ったことから、基礎的な学習項目の習得に課題があることがわかる。

【今後に向けて】

＜国語＞ 語句の用法、叙述の仕方、表記などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題の正答率が低かったことから、多様な文章に接する機会を確保することで、基本的な語彙力の向上や根拠を考えながら記述できるよう働きかけていく。

＜数学＞ 依然としてすべての分野において、正答率は全国の値を下回る状況であり、基本的事項の習得が不可欠である。反復した演習や小テストでの理解度の確認を取り入れるなどして、定着を図っている。数学が比較的得意な生徒には、発展問題などの問題に取り組みせ、応用力を高めることにも努めたい。また、記述式の無回答率がかなり高いことから、普段の授業から物事を考え、表現する力を高めていく必要がある。

＜理科＞ 理科を好きだと感じている生徒は多く、抽象的な概念の習得に当たってはICTを活用し、イメージしやすいように工夫する。自然現象の理解については、観察や実験を可能な限り増やすように心がけており、受験レポートなどを作成させることで表現力の向上もはかっていく。

○中学生チャレンジテスト(3年)

【成果と課題】

いずれの教科においても平均点は、府平均・市平均を大きく下回る結果となった。

＜国語＞

成果:平均点は府平均を21.9ポイント、市平均を22.6ポイント下回り、無回答率では府平均を9.0ポイント、市平均を9.7ポイント上回った。

問題番号一1、一4、一5などのように、選択式問題については、正答率では大阪府・大阪市平均を下回っているものの、無回答率では0%を記録しているものがあり、また同一母集団での無回答率の府平均・市平均との差は、昨年より小さくなっており、テストについての回答意欲は向上している。

課題:問題番号四6(2)においては無回答率が60%、ほかにも問題番号三4や5、五5(1)などは無回答率が40%を超える結果となっており、自分の意見を文章化して答えることに苦手意識を持つ生徒は依然として多い。

＜社会＞

成果:平均点は府平均を19.7ポイント、市平均を20.0ポイント下回り、無回答率では府平均を4.8ポイント、市平均を5.6ポイント上回った。

問題番号1(1)～(4)、2(1)③、2(2)②、④、(3)①、③など、選択式問題では無回答率0%を記録した。同一母集団での無回答率の府平均・市平均との差は、昨年より小さくなっており、テストについて解ける問題を見つけて諦めずに取り組むことができた。

課題:50点以上の生徒が6名で2年時と変わらず、上位層の得点を引き上げることができなかった。問題番号3(3)①や4(1)④などの資料に示された情報をもとに考察し、説明することができるかを問う問題の正答率が極端に低く、基礎的な知識を増やすことの大切さと、それをもとに説明するアウトプットする力の重要性を改めて実感した。文章で説明する問題において無回答率も高く、あきらめない姿勢で取り組めるように働きかけて行く必要がある。

＜数学＞

成果:平均点は府平均を15.9ポイント、市平均を16.3ポイント下回り、無回答率では府平均を7.9ポイント、市平均を8.9ポイント上回った。

平均点の府平均点・市平均点との差は、昨年より小さくなっている。問題番号1(2)～(3)、3(1)～(3)、3(6)、4(1)～(3)など、数と式、図形、関数、データの活用の各分野において、知識・技能を選択式で解答する問題に対する正答率が比較的高く、無答率も低い。一方、問題番号6(1)②、6(2)、7(3)、8(2)②など、関係を式で表したり、筋道を考えて証明したり、データを読み取り判断の理由を説明するなど、思考・判断・表現についての問題での無回答率が極端に高かった。

課題:基礎的な計算力は高まってきているが、短答式や証明など記述問題における無回答率が高いため、自分の考えをあきらめずに自分の言葉で表現する力を

育てる必要がある。

＜理科B＞

成果:平均点は府平均を17.9ポイント、市平均を18.4ポイント下回り、無回答率では府平均を9.2ポイント、市平均を10.8ポイント上回った。

昨年同様、正答率は低いものの前向きに取り組んでいる。問題番号4(1)②のエネルギー分野での思考・判断・表現の問題では、正答率が大阪府平均を上回ることができた。問題番号4のように実験について問う問題には積極的に取り組んでおり、日々の授業で積極的に実験を取り入れた授業づくりをした成果が出ているといえる。

令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

＜英語＞

成果: 平均点は府平均を14.8ポイント、市平均を16.0ポイント下回り、無回答率では府平均を9.5ポイント、市平均を10.4ポイント上回った。
問題番号1、2、3のように聞く領域で、短いやりとりを聞いて話し手の意向を正確に理解し会話の続きとして適切な応答を選択する問題や説明を聞き、説明の概要を捉えて内容の要点を適切に把握する問題での無回答率は大阪府の無回答率を上回っており、問題に対して答えを導きだそうとする様子がみられた。

課題: すべての分野において正答率は大阪府の正答率を下回る状況で、基本的な学習内容の定着が必要であることが分かった。とくに書く領域での記述問題に対する無回答率は高く、今後も語彙力をあげ、様々な英語表現に触れる機会を増やし、正確に英語を書く力の向上をはかることが大切である。

【今後に向けて】

＜国語＞

授業において個人の学習状況と漢字検定の受験級に合わせた漢字の学習の時間をとっており、学習の基礎となる文字の知識を増やせるよう取り組む。また、引き続き読解力向上に向けて、教科書の文章の朗読、読解の練習問題などを行うことで、文章への苦手意識を改善するよう努めていく。さらに記述式問題への苦手意識を克服するため、授業内で「考えて書く時間」を設定し取り組んでいく。

＜社会＞

入試に向けて、重要語句を覚えることなどの基礎的な理解と応用問題の両方を平行して学習していく。教科書に載っている資料について、繰り返し確認し復習を重ねていく。また、問題集を活用し、多くの問題に触れ粘り強く取り組む力を伸ばす。

＜数学＞

すべての分野において正答率は大阪府正答率を下回る状況であり、基本的事項の習得が不可欠である。授業の中でも反復演習や既習事項の復習を行い理解度を確認し学習内容の定着を図る。数学が比較的得意な生徒には発展問題など、様々なパターンの問題に取り組みせ、応用力を高めさせていく。また、記述式の無回答率がかなり高いことから、普段の授業から物事を考え、教科書の言語で発表・表現する力を高めていく。

＜理科＞

自然現象の名称や実験器具の名称など、本来なら正答率が上がるはずの基礎的な内容の定着が不十分なため、スモールステップでの反復演習や小テストを実施し、基礎的な知識の定着を図る。また、文章や資料を読み取り、今後どのように変化するかなど想像する力を養い発表させるため、今後も実験等の体験的な学習を積極的に行っていく。

＜英語＞

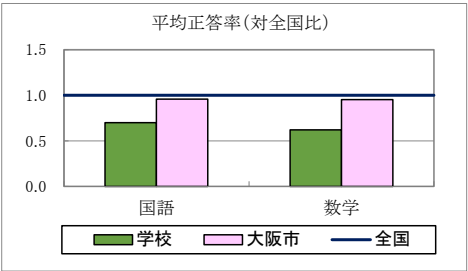
引き続き、英単語や英文法などの基本的な内容を定着させることができるよう指導していく。また、生徒が無回答になることがないように指導をしていく。

令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

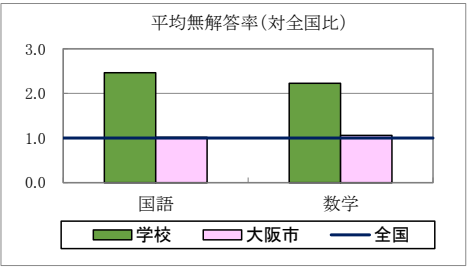
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	38	30
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

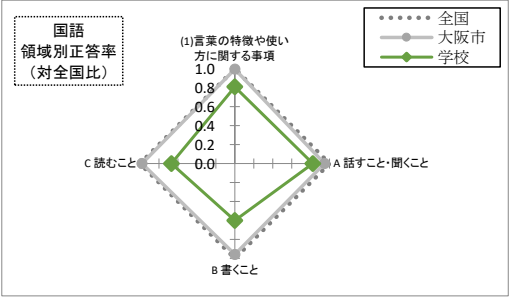
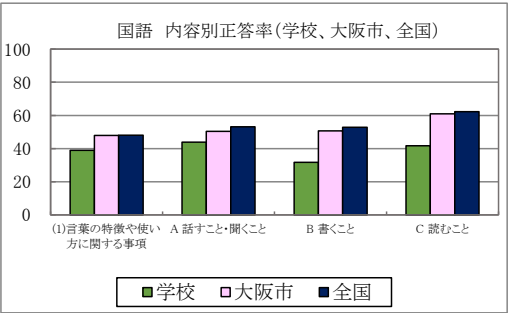


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	16.5	23.6
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6



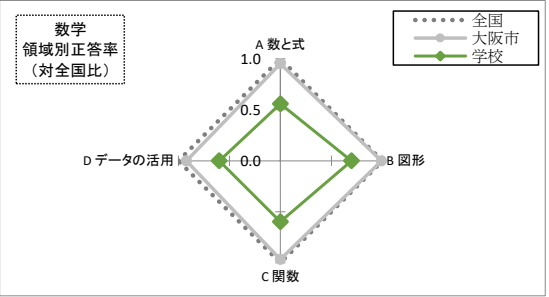
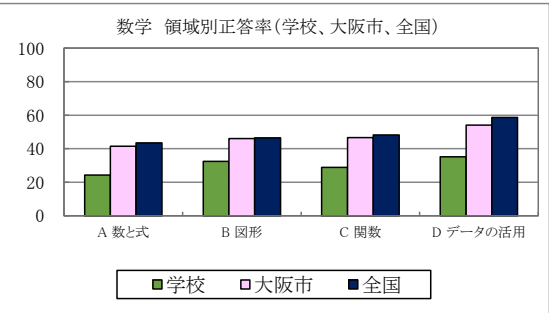
【 国 語 】

学習指導要領の 内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	38.9	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	43.8	50.4	53.2
B 書くこと	5	31.7	50.6	52.8
C 読むこと	3	41.7	61.0	62.3



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	24.3	41.4	43.5
B 図形	4	32.4	46.1	46.5
C 関数	3	28.8	46.6	48.2
D データの活用	3	35.1	54.0	58.6

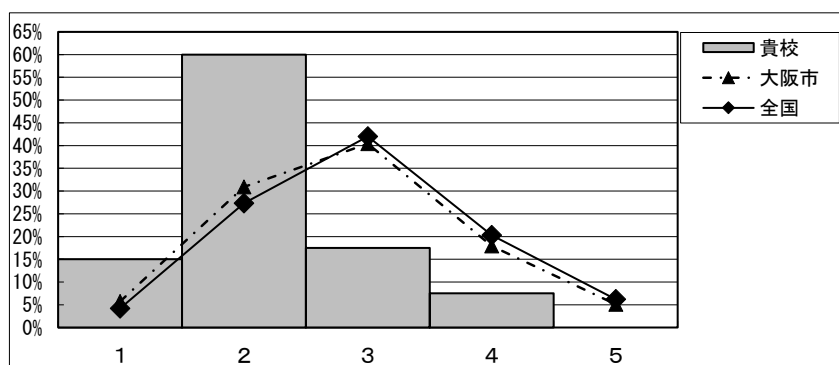
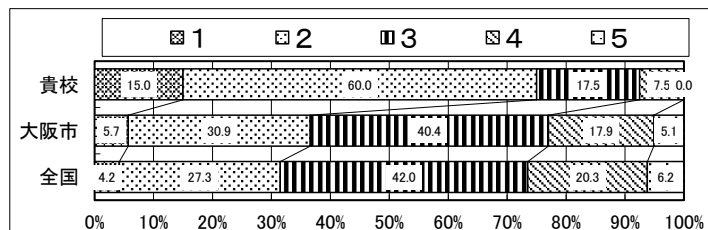


令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	404
大阪市	489
全国	503



令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

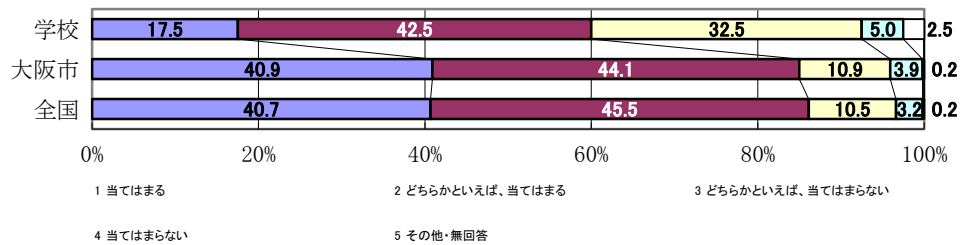
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

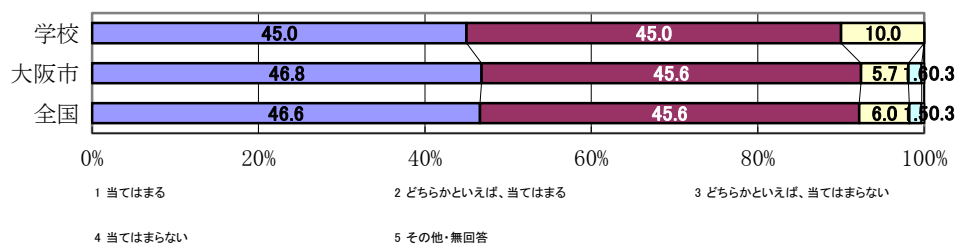
5

自分には、よいところがあると思いますか



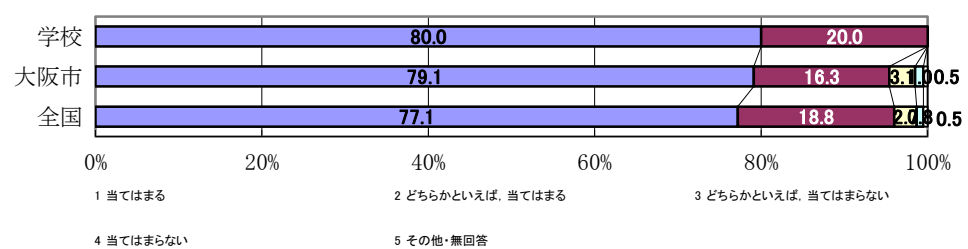
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



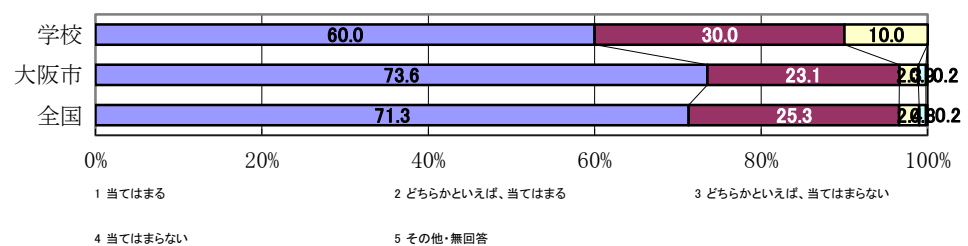
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



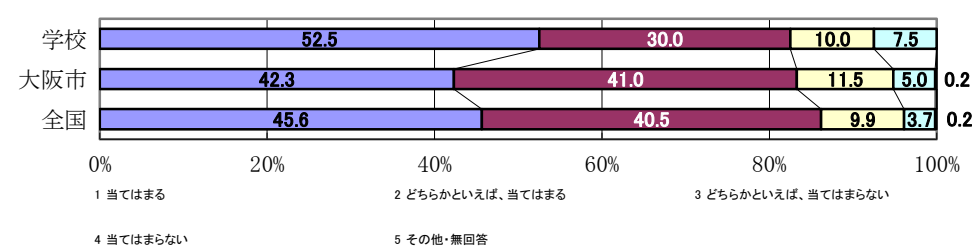
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



12

学校に行くのは楽しいと思いますか



令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

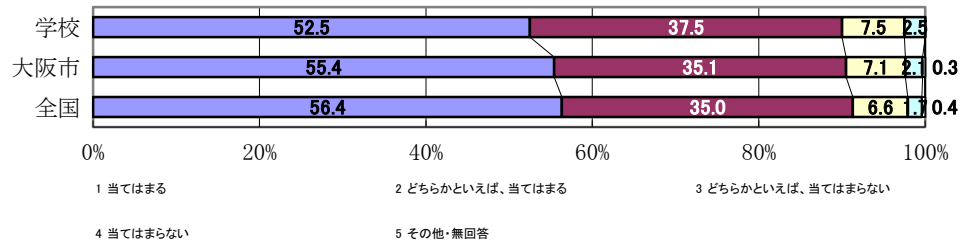
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

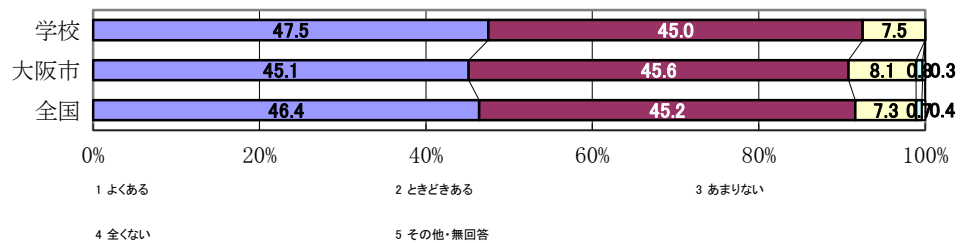
14

友達関係に満足していますか



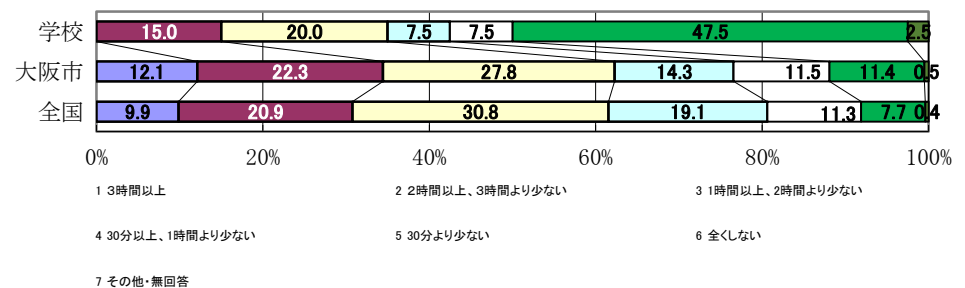
15

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



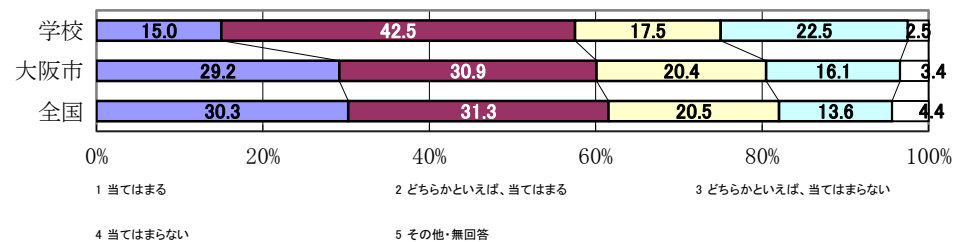
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



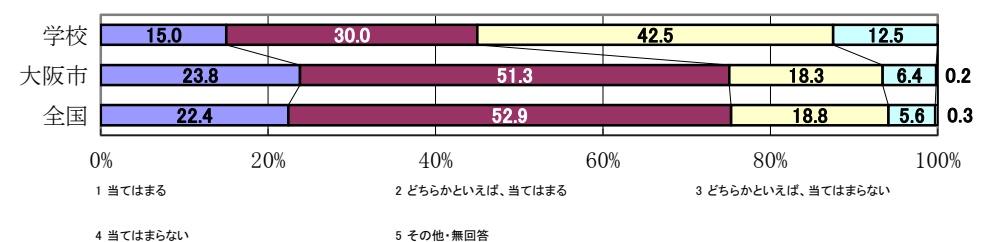
24

読書は好きですか



27

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

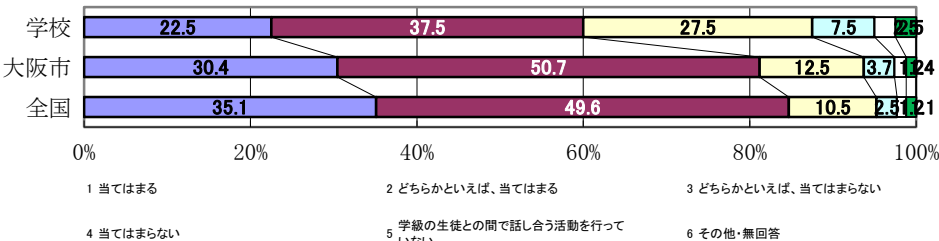
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

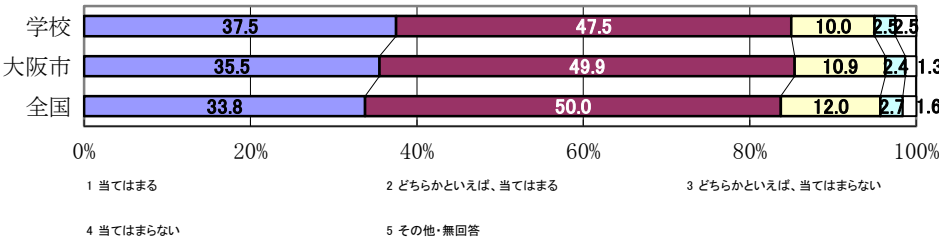
35

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



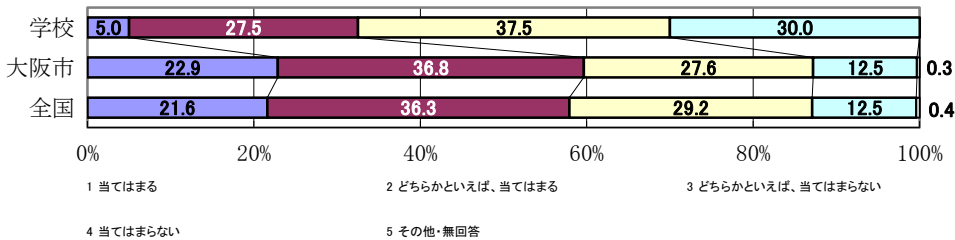
38

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



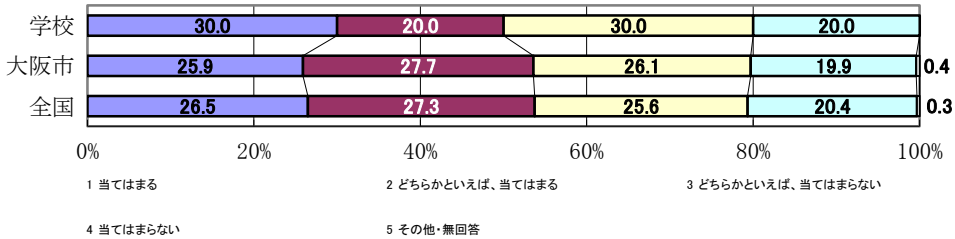
45

国語の勉強は好きですか



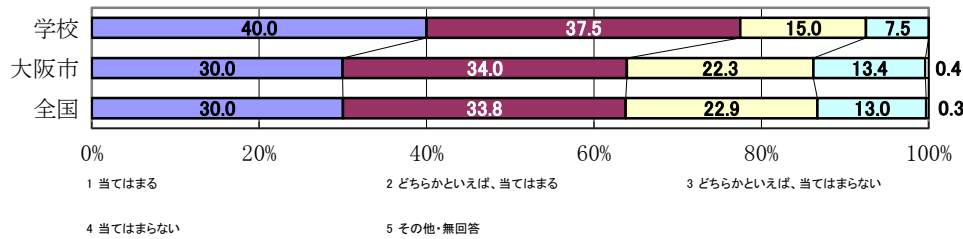
53

数学の勉強は好きですか



61

理科の勉強は好きですか



令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

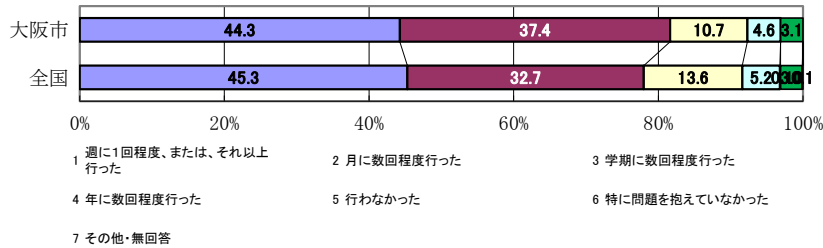
質問番号

質問事項

12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

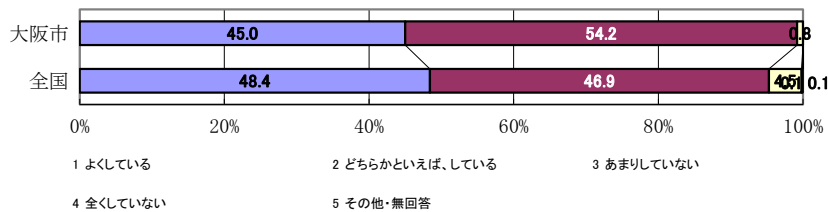
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

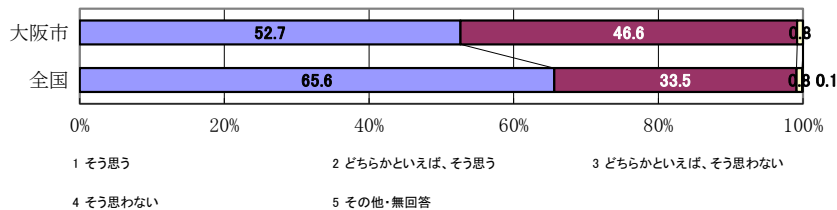
学校 「よくしている」を選択



23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか

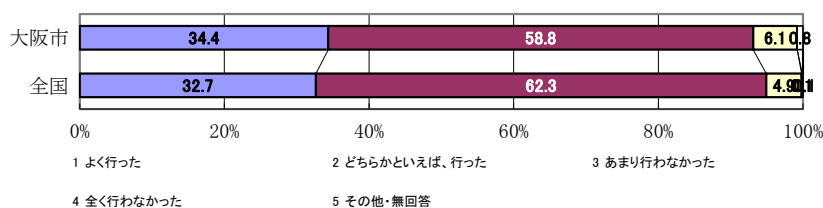
学校 「そう思う」を選択



31

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

学校 「よく行った」を選択



67_5

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(5) 生徒の心身の状況の把握

学校 「ほぼ毎日」を選択

